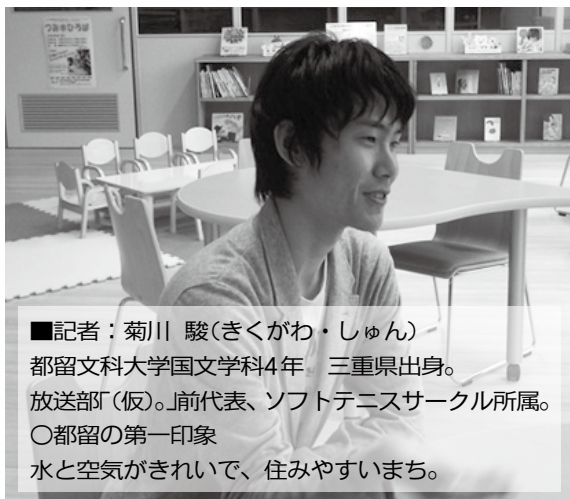


# 協働通信

4月に市民活動支援センターと都留文科大学地域交流研究センターの分室が「まちづくり交流センター」に設置されました。  
 そこで今回は、市民活動支援センターと地域交流研究センターの協働企画として、都留文科大学国文学科4年の菊川駿さんに市内の地域活動取材していただきました。



■記者：菊川 駿(きくがわ・しゅん)  
 都留文科大学国文学科4年 三重県出身。  
 放送部(仮)前代表、ソフトテニスサークル所属。  
 ○都留の第一印象  
 水と空気がきれいで、住みやすいまち。

4月11日、東桂小学校体育館において児童とスクールガード所属メンバーの方々の対面式が行われ、私はその場を見学させていただきました。都留市に住み始めて3年になりますが、「スクールガード」という団体名すら知らなかった私は、東桂地区だけで去年は143名、今年もすでに100名近いメンバーの登録があると知り、その規模の大きさに度肝を抜かれました。対面式の後に、スクールガード・リーダーをされている武藤正明さんにお話を伺いました。

▽都留市まちづくり市民活動支援センター  
 都留市中央3-8-1  
 都留市まちづくり交流センター  
 (旧文化会館)1階  
 ▽開館  
 火～日(祝日除)  
 8:30～17:15  
 ▽問い合わせ先  
 mail: shien@city.tsuruyamanashi.jp  
 ☎(43)1321  
 F A X (43)1322  
 ※4月1日から移転しました。



■スクールガード・リーダー武藤正明さん

毎朝、児童の登下校時にスクールガードを実施され大変だと思えますが、地区ごとに当番などを決めていっているのでしょうか。  
 武藤：毎日子どもたちの登下校を見守ることができるよう、当番を割り振ってはいませんが強制はしていません。  
 ボランティアに近い活動であって、義務になっただけはないと思うので、お茶や散歩のついでに子どもたちを見守ったりあいさつを交わしたり、楽しみながら続けていけたらと思っています。

活動中に気を付けていることはありますか。  
 武藤：一番怖いのは交通事故ですね。歩道が未舗装の道路や狭い道は、特に子どもたちだけでなく、私たちメンバーの安全も気を付けるようにしています。

活動をされていて、どのようなときに嬉しいと感じますか。  
 武藤：始めた頃は子どもたちも怪訝な顔を返してきましたが、今では元気にあいさつをしてくれることです。  
 また、スクールガードへの感謝の手紙が回覧板に載ったときも嬉しかったですね。



■スクールガードと児童との対面式



■スクールガードが付き添う下校風景

私の故郷にも児童の安全を見守ることを目的とした交通安全当番がりましたが、主に児童の保護者たちで構成されていきました。それに対し、都留市のスクールガードは、通学している児童とは直接関係のない地域住民の方々でも自由に登録・参加できるようになっています。  
 地域住民同士の関係の希薄化が取り沙汰されることの多い現代において、このような団体はとても貴重だと感じました。世代を超えた人々の温かいふれ合いが、都留市では今も息づいているようです。

## 地域のお知らせ

### 谷村地域

夢実現ひろば

寺めぐり・東漸寺

く日蓮上人・芭蕉・高山家の友愛について昔を偲ぶ時間に浸ろう！

日時 5月23日(木)

13時～16時(現地解散)

集合場所 中央4丁目「東漸寺」

乗り物 お仲間同士で乗り合わせ

主催 谷村地域協働のまちづくり推進会

問合先 中央公民館

☎(43)1321

重原

☎(43)1497

担当 重原・山田(ふ)・柳場・

柳沢・滝口